

2019年度 交通局運営方針

～京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョンの初年度～



もくじ

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2	2019年度 重点取組及び事業戦略一覧・・・・・・・・	4
3	重点取組	
	市バスの混雑対策・・・・・・・・	7
	公営交通を支える担い手の安定的な確保・・・・・・・・	11
	地下鉄烏丸線における可動式ホーム柵の全駅設置を目指した取組・・・	12
	運賃収入の増収に向けた取組の推進・・・・・・・・	13
4	事業戦略	
	安全運行の確保・・・・・・・・	14
	より質の高いサービスの提供・・・・・・・・	16
	利便性・快適性の向上・・・・・・・・	17
	まちづくりへの貢献・・・・・・・・	23
	経営基盤の強化・・・・・・・・	24
5	2019年度予算概要について・・・・・・・・	27

1 はじめに

■ 経営の現状・今後の見通し

- 交通局は、本市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン」に掲げる「歩いて楽しいまち・京都戦略」を担う公営交通事業者として、「市バス・地下鉄中期経営方針」に基づき、安全運行やお客様サービス・利便性の向上等に取り組んできました。
- 市民の皆様の御理解と御協力の下、これまで取組を推進してきたことにより、市バス・地下鉄事業ともにお客様数は増加し、市バス事業においては自立経営を堅持、地下鉄事業においても、財政健全化法に基づく「経営健全化団体」から脱却するなど大きな経営改善を果たしました。
- しかし、車両や設備の更新費用の増加などにより、両事業とも今後10年間の経営は大変厳しい状況が見込まれます。
- 特に、これまで黒字経営を継続してきた市バス事業については、全国的なバス運転士・整備士の担い手不足や、管理の受委託に係る委託料の大幅な増加等に伴うコストの上昇が見込まれ、当面、経常損益は赤字となることが避けられない状況となっています。

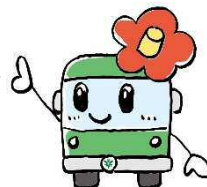
■ 「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」の策定

このような中、今後の経営環境や課題を踏まえて、2019年度から10年間の市バス・地下鉄事業の経営の基本的な方針や具体的取組、財政計画等を取りまとめた「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」（以下「経営ビジョン」という。）を2019年3月に策定しました。

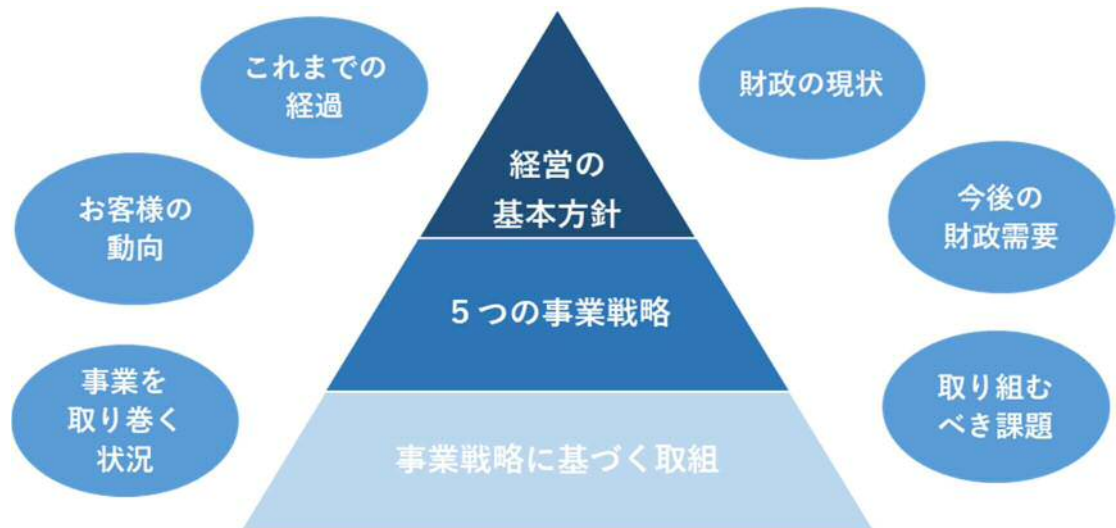
■ 2019年度交通局運営方針

2019年度は新たに策定した経営ビジョンに基づき、交通事業の根幹である安全・安心を最優先に、喫緊の課題である市バスの混雑対策に重点を置きつつ、増収増客策や質の高い便利で快適なサービスの提供、また、安定経営に向けたバス運転士や整備士の担い手確保に努めます。

2019年度は新たな経営ビジョンの
初年度となります！！



(参考) 「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」の体系



事業戦略1 安全運行の確保
交通事業者の最大の責務である輸送の安全を確保し、お客様に安全・安心に御利用いただける市バス・地下鉄を目指します。
事業戦略2 より質の高いサービスの提供
おもてなしの心による丁寧な接遇を徹底するとともに、お客様の御期待やニーズにお応えし、より質の高いお客様サービスを提供することにより、市バス・地下鉄に御満足いただけるよう取り組みます。
事業戦略3 利便性・快適性の向上
市バス・地下鉄をより便利、快適に御利用いただけるよう、利便性とサービスの向上に取り組み、更に多くのお客様に御利用いただくことを目指します。
事業戦略4 まちづくりへの貢献
持続可能な社会を目指すSDGsの実現など、京都のまちづくりに貢献する市バス・地下鉄を目指します。
事業戦略5 経営基盤の強化
将来にわたり、市バス・地下鉄事業を安定的に運営できるよう、経営基盤の強化に取り組みます。

2 2019年度 重点取組及び事業戦略一覧

【宿】…宿泊税を充当して行う事業

重点取組1 市バスの混雑対策

～喫緊の課題として、関係局区や民間事業者とも連携して取り組みます～

■観光系統の分かりやすさの向上など「市民生活と観光の調和」を目指した取組

- ・大型手荷物に対応したバス車両の導入【宿】
- ・観光系統の分かりやすさの向上【宿】
- ・金閣寺道（南行）停留所における生活系統と観光系統の分離
- ・ラッシュ型車両の導入

■前乗り後降り方式の導入【宿】

■市バスから地下鉄への利用促進及び手ぶら観光の推進【宿】

- ・航空機内のお客様や関西国際空港等から入洛されるお客様へのPR
- ・応援キャラクターやマスメディア等を活用した観光客へのPR
- ・京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による案内の強化
- ・市バスから地下鉄への無料乗継ぎの実施

重点取組2 公営交通を支える担い手の安定的な確保

～直営規模の拡大を見据え、しっかりと担い手を確保し、市民の足を守ります～

■路線・ダイヤの維持に向けた市バス運転士の確保

■女性運転士の採用に向けた取組

■より質の高い市バス運転士の育成

■市バスの安全輸送を支える整備職員（自動車検査技師）の確保

重点取組3 地下鉄烏丸線における可動式ホーム柵の全駅設置を目指した取組

～厳しい経営環境の中でも安全・安心を最優先に取り組めます～

■新型車両への更新着手

■可動式ホーム柵の全駅設置に向けた計画の策定

重点取組4 運賃収入の増収に向けた取組の推進

～持続可能な事業運営に向けて経営基盤を強化します～

■「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の目標達成に向けた取組

■区役所等と連携した赤字系統の利用促進

■お客様1人当たり乗車運賃の引き上げ

事業戦略1 安全運行の確保

- 運輸安全マネジメントに基づく取組の推進
- 市バスの有責事故削減に向けた教育訓練の徹底
- 市バス・地下鉄の運休等に係る情報提供の強化
- 地下鉄烏丸線における可動式ホーム柵の全駅設置を目指した取組（再掲）
- 地下鉄の浸水対策の強化
- 烏丸線駅ホームへの車掌用モニター設備の増設
- 視覚障害者団体の皆様と連携した安全啓発活動の実施

事業戦略2 より質の高いサービスの提供

- 「交通サポートマネージャー」の養成
- 役付職員の添乗調査等による接客レベルの向上
- 「お客様満足度調査」の実施

事業戦略3 利便性・快適性の向上

（市バス）

- 路線・ダイヤの継続的な改善
- 市バスの旅客流動調査の実施と路線・ダイヤの在り方の検討
- フルカラーLED式行先表示器の導入拡大
- 車内中央部への案内モニターの増設【宿】
- バス待ち環境の整備
 - ・ 東大路通の歩行空間創出に伴うバス停の改修等【宿】
 - ・ 京都駅前バスターミナルAのりばへのドライ型ミスト装置の設置【宿】
 - ・ 北大路バスターミナルのトイレのリニューアル【宿】
- 市バス均一運賃区間の拡大

（地下鉄）

- 車内や駅構内の案内表示の充実
 - ・ 車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進【宿】
 - ・ 災害時の運行情報提供に係る駅構内掲示物の4箇国語対応
 - ・ 外国人観光客にも分かりやすい案内用図記号への更新【宿】
- 駅トイレのリニューアル
- お客様の多い駅の夜間集中清掃をはじめとした駅構内の美化推進
- 駅施設・設備の計画的改修
- 照明のLED化

事業戦略4 まちづくりへの貢献

- 地域主体のモビリティ・マネジメント（MM）の取組
- 事業者としてのCO₂排出削減の取組
- 文化首都・京都への貢献
- 次世代技術や新たな公共交通についての動向の注視・研究

事業戦略5 経営基盤の強化

【持続可能な財政運営】

- 運賃収入の増収に向けた取組の推進（再掲）
- 附帯事業の収入増加に向けた取組の推進
- コスト削減策の推進
- 施設マネジメント計画に基づく施設等の長寿命化
- 利益剰余金の活用など財政の安定化のための対策
- 制度等の継続的な点検・研究や国への要望
- 市民の皆様への経営情報等の発信強化

【組織力・職員力の向上】

- 公営交通を支える担い手の安定的な確保（再掲）
- 真のワークライフバランスの実現に向けた「働き方改革」の実践
- コンプライアンス意識の向上と風通しのよい組織づくり

3 重点取組

重点取組1 市バスの混雑対策

■ 観光系統の分かりやすさの向上など「市民生活と観光の調和」を目指した取組 ・大型手荷物に対応したバス車両の導入

ラッシュ型車両のうちの一部において、大きな手荷物を置くスペースを車内後方に新たに設けた車両を2018年度に2両で試行導入し運用を開始しています。

2019年度は、市民の皆様の御意見を踏まえながら12両導入し2020年度までに観光系統専用車両の全17両に導入します。



【大きな手荷物を置くスペースを設けた車内レイアウト】

年度	2019	2020	備考
大型手荷物に対応したバス車両の観光系統への導入	12両実施 (累計14両)	3両実施 (累計17両)	100, 101, 102号で実施

・観光系統の分かりやすさの向上

観光客の皆様に、通勤や通学などで市民の皆様が利用される生活系統ではなく、観光目的での利用に便利な観光系統に御乗車いただけるよう、観光系統においてラッピングデザインの変更や新たなヘッドマークの掲示等により、生活系統との違いを分かりやすく表示しています。

2019年度は、12両にラッピングを実施し、2020年度までに観光系統専用車両の全17両にラッピングを実施します。



【新しいラッピングデザイン】

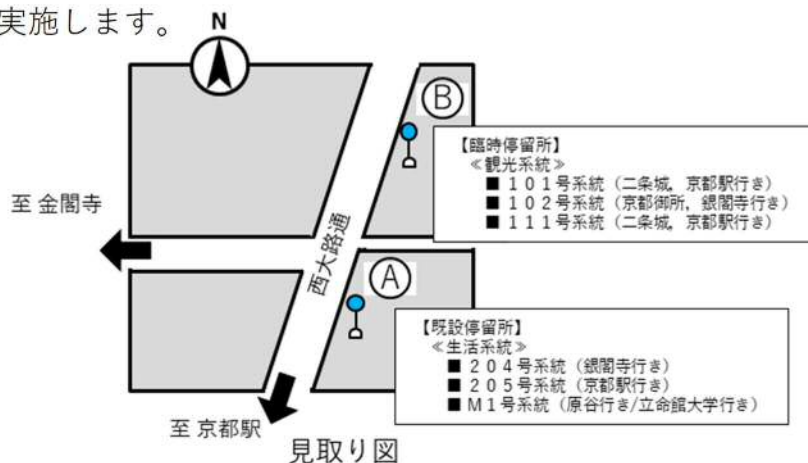


【観光系統における新しいヘッドマーク】

年度	2019	2020	備考
観光系統の分かりやすさの向上	12両実施 (累計14両)	3両実施 (累計17両)	100, 101, 102号で実施

・金閣寺道（南行）停留所における生活系統と観光系統の分離

地域住民の皆様により市バスを御利用いただきやすいよう、観光シーズンに「金閣寺道」（南行）の停留所を分設し、生活系統（既設停留所）と観光系統（臨時停留所）を分離することにより、分散化を図る取組を引き続き実施します。



・ラッシュ型車両の導入

市バスの混雑対策として、バス車両の更新に当たっては、中型車両を除き、より多くのお客様が乗車できるラッシュ型車両の導入を進め、お客様の御利用が多い主要系統や観光系統で重点的に運用します。



【ラッシュ型車両の車内】

■ 前乗り後降り方式の導入（2018年度100号系統，2019年度102号系統）

前扉を乗車口として先に運賃をお支払いいただき、車両の中ほどにある広い後扉からスムーズに降車いただく前乗り後降り方式について、観光系統（100番台の系統）に順次導入していくこととしています。

本年3月16日実施の新ダイヤから100号系統で導入を開始しており2019年度は102号系統での導入を目指して、停留所や車両の改修等に取り組みます。

年度	2019	2020	2021	2022	備考
前乗り後降り方式 の観光系統への導入	102号 で実施	101, 106, 110, 111号で 実施	104, 105号で実施 (改修バス停の調査を 行い順次実施)		100号, 東山シャトルは 2018年度に導入

■ 市バスから地下鉄への利用促進及び手ぶら観光の推進

・航空機内のお客様や関西国際空港等から入洛されるお客様へのPR

民間事業者等との連携により、航空機内や関西国際空港等からのリムジンバスにおいて、入洛される観光客に対し、地下鉄も上手に利用した観光を案内するチラシ等を作成し、周知に努めるほか、キャリーバッグ等を配送する手ぶら観光カウンターの御案内に努めていきます。



【航空機内やリムジンバスの車内で配架しているリーフレット】

・応援キャラクターやマスメディア等を活用した観光客へのPR

「太秦萌」など地下鉄・市バス応援キャラクターを活用したポスターの制作やウェブサイトの効果的な運用などにより地下鉄・市バスの一層の利用促進を図ります。

また、関係部局と連携するとともに、マスメディアも活用し、地下鉄と市バスを組み合わせた観光ルート案内を国内及び海外の観光客へPRを実施します。



【地下鉄・バス一日券】



【応援キャラクターを活用したウェブサイト】

・京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による案内の強化

語学に堪能な学生スタッフ（約70名が在籍）が中心となり、土曜・休日や春・秋の観光シーズンに京都駅や市内の観光地の最寄りバス停において、市バスと地下鉄を上手に組み合わせたアクセス方法などの交通・観光情報等をお客様に御案内する「京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”」事業について、2019年度は活動日数を前年度より20日拡大し、年間197日実施します。（2018年度：177日）



【京都駅前バスターミナルでの案内活動】

・市バスから地下鉄への無料乗継ぎの実施

5月の大型連休と秋の観光シーズンにおいて、混雑のピークとなる午後の時間帯に、東山三条・金閣寺道停留所から京都駅へ向かわれるお客様に対し、停留所で運賃をお支払いいただき、地下鉄へ無料で乗り継いでいただける振替輸送を実施しています。

2019年度についても本取組を実施し、市バスの車内混雑の緩和を図ります。

【2018年度の御利用状況】

- ・東山三条 18,988人（春 5,668人，秋 13,320人）
- ・金閣寺道 7,833人（春 2,468人，秋 5,365人）



【地下鉄への無料乗継ぎの案内】



外国人観光客の急増に伴う混雑対策やマナー問題の解決、受入環境の整備など、市民生活と調和した観光の推進及び観光を通じた京都経済の活性化に向けた方策を検討するため、本年5月に産業観光局を中心に関係局区で構成する「市民生活と調和した持続可能な観光都市」推進プロジェクトチームが設置されました。交通局も、同プロジェクトチームに参画しており、関係局区とも連携しながら、引き続き市バスの混雑対策を推進します。

重点取組２ 公営交通を支える担い手の安定的な確保

２０２０年３月における九条営業所での受託事業者の撤退に伴う完全直営化への対応など、市バス運転士や整備士をはじめとする担い手の確保に取り組み「市民の足」をしっかりと守ります。

■ 路線・ダイヤの維持に向けた市バス運転士の確保

九条営業所における完全直営化への対応として２０１９年度は１００名を超える市バス運転士を新たに確保する必要がありますが、大型二種免許未取得者を対象とした採用方式を中心に、バス運転士の採用試験を複数回実施し、計画的に必要な担い手を確保します。

■ 女性運転士の採用に向けた取組

女性の方にも市バス運転士として活動いただけるよう、現役の女性市バス運転士から直接話を聞くことができる女性限定の採用説明会を実施するなど、やりがいを持って働いていただける仕事であることをしっかりとＰＲしていきます。

■ より質の高い市バス運転士の育成

採用後においても経験年数や習熟度に応じたきめ細かな研修を実施するなど、安全・安心な市バスの運行に必要な技術・能力の向上を図り、より質の高い市バス運転士の育成に取り組めます。

■ 市バスの安全輸送を支える整備職員（自動車検査技師）の確保

将来にわたり安全輸送を支えていく体制を確保するため、市バス車両の検査や整備管理業務等を行う市バス整備職員（自動車検査技師）の担い手確保に向けて取り組みます。



【市バスの女性運転士】



【市バスの走行練習の様子】



【市バス整備職員】

重点取組３ 地下鉄烏丸線における可動式ホーム柵の全駅設置を目指した取組

■ 新型車両への更新着手

烏丸線 20 編成のうち更新時期を迎える 9 編成について、2025 年度にかけて、順次、可動式ホーム柵の全駅設置に不可欠である自動列車運転装置（ＡＴＯ）を搭載した新型車両へと更新していきます。

2019 年度は、各種機器の基本的な仕様の検討、相互直通運転を行っている近畿日本鉄道（株）との協議及び市民や御利用者の皆様の投票により決定したデザインを基に新型車両の実施設計に着手します。

【烏丸線車両の新デザイン】



（外観デザイン）



（内装デザイン）

※ 新型車両のデザインは、幅広く意見を取り入れるため、懇談会を開催して頂戴した御意見を基に制作した複数案の中から、市民や御利用者の皆様の投票により決定しました。

■ 可動式ホーム柵の全駅設置に向けた計画の策定

交通局車両（11 編成）の改造や相互直通運転を行っている近鉄車両の改造に向けた協議を進め、2019 年度中に可動式ホーム柵全駅設置に向けた具体的な計画を策定します。

年度	2019	…	2021	2022	2023	備考
烏丸線における可動式ホーム柵の全駅設置を目指した取組	新型車両実施設計に着手 設置に向けた計画策定		新型車両導入 (1 編成)	(2 編成)	(2 編成)	2025 年度までにさらに 4 編成を導入 (計 9 編成)

重点取組 4 運賃収入の増収に向けた取組の推進

■ 「地下鉄・市バスお客様 1 日 80 万人」の目標達成に向けた取組

「地下鉄・市バスお客様 1 日 80 万人」の実現に向け、「チーム『電車・バスに乗るっ』」において、民間団体等とも連携しながら、地下鉄・市バスはもとより民間の鉄道やバスも含めた公共交通を活用した取組により、ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」や「健康長寿のまち・京都」の更なる推進に寄与していきます。

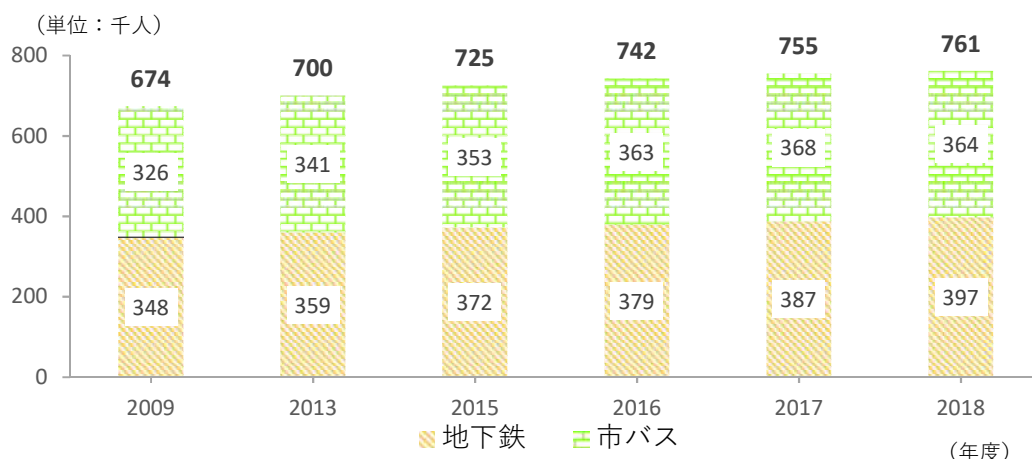
(2019 年度の主なイベント)

- ・ ICOM 京都大会関連イベントなど

【2018 年度に実施した鉄道・バス感謝祭】



(参考) お客様数の推移



■ 区役所等と連携した赤字系統の利用取組

「地下鉄・市バスお客様 1 日 80 万人推進本部」の下に、区役所等と連携した地域の皆様の市バス利用の機運を高める運動を展開するチームを立ち上げ、全系統のうちの 6 割近くを占める市バスの赤字系統における利用促進の強化を図る取組を進めます。

(参考) 2017 年度の営業係数

黒字 3 8 系統 (営業係数100未満)		赤字 4 5 系統 (営業係数100以上)		
~99		100~150	151~200	201~
3 8 系統		2 4 系統	1 4 系統	7 系統

■ お客様 1 人当たり乗車運賃の引き上げ

I C カードサービスの充実に向けた検討と併せて、当面の間 600 円としている「バス一日券」の価格適正化など、各種割引乗車券について、点検・見直しの実施に向け取り組みます。

4 事業戦略

事業戦略1 安全運行の確保

■ 運輸安全マネジメントに基づく取組の推進

交通事業者として最大の責務である輸送の安全を確保し、
お客様に安全・安心に御利用いただける市バス・地下鉄を目指します。

[2019年度安全目標]

市バス：重大事故件数0件，

走行10万キロ当たりの有責事故件数

について過去最小値を下回る

【2018年度0.237】

地下鉄：有責による運転事故及び輸送障害ゼロ



【点呼における運転士の健康状態や携行品の確認】

■ 市バスの有責事故削減に向けた教育訓練の徹底

安全運転訓練車や外部機関を活用した車内転倒や接触等の事故防止研修
を継続的に実施します。

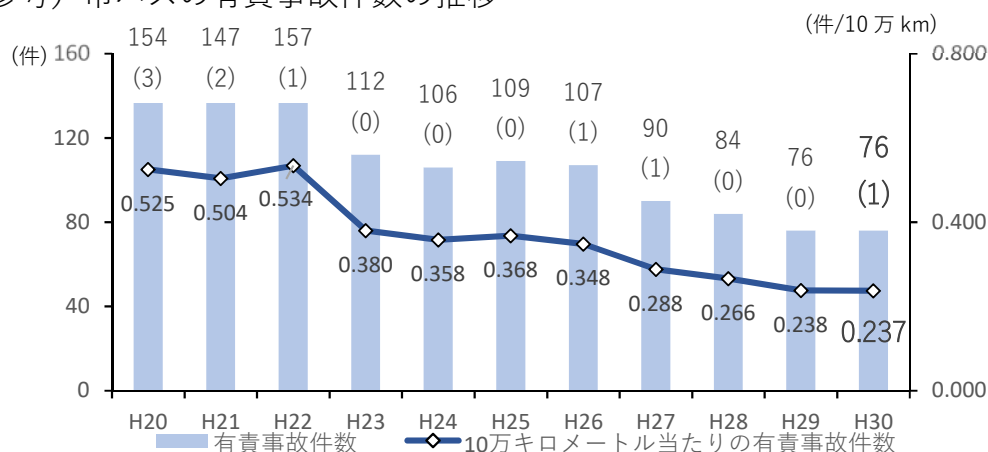


【安全運転訓練車による運転士向け研修】



【外部機関と連携した運行管理者向け研修】

(参考) 市バスの有責事故件数の推移



■ 市バス・地下鉄の運休等に係る情報提供の強化

平成30年9月に発生した台風21号による影響により、市バスの全便運休
や地下鉄烏丸線における一部区間の運休等が生じた経験を踏まえ、

「Twitter」を活用した運行情報等の発信を行うなど、お客様への迅速
な御案内に努めます。

■ 地下鉄烏丸線における可動式ホーム柵の全駅設置を目指した取組

※再掲 12ページ参照

■ 地下鉄の浸水対策の強化

浸水対策の強化に向け、2019年度までの4箇年で12駅31箇所の出入口に止水板の設置等を進めており、最終年となる2019年度は3駅（丸太町駅、五条駅、六地蔵駅）11箇所に止水板を設置します。

さらに、2018年度に公表された京都市水害ハザードマップに基づき新たに対応が必要となった8駅16箇所の出入口等に、今後止水板を設置することとしており、2019年度は設置に向けた具体的な計画を策定します。



【駅出入口における止水板】

年度	2019	...	備考
駅出入口への止水板等の設置	・3駅11箇所設置（計画している12駅31箇所の設置完了） ・追加設置計画の策定	...	更に8駅16箇所に設置

■ 烏丸線駅ホームへの車掌用モニター設備の増設

車掌の目視確認を補完し、地下鉄駅ホームの安全性向上に効果のある車掌用モニターについて、2021年度までに烏丸線の全駅に設置することとしています。

2019年度は5駅10箇所に設置します。
（五条駅、九条駅、十条駅、くいな橋駅、竹田駅）



【車掌用モニター】

年度	2019	2020	2021	備考
烏丸線駅ホームへの車掌用モニター設置	5駅設置	1駅設置	2駅設置	2021年度に烏丸線全駅で設置完了

■ 視覚障害者団体の皆様と連携した安全啓発活動の実施

視覚に障害のあるお客様へ、地下鉄の駅係員が案内誘導についてお聞きする声掛けを行うとともに、視覚障害者団体の皆様と共同で、地下鉄を御利用されるお客様に対して、視覚に障害のあるお客様への積極的な声掛けをお願いする啓発活動を実施します。



【四条駅での啓発活動】

事業戦略2 より質の高いサービスの提供

■ 「交通サポートマネージャー」の養成

お客様に安心して御利用いただけるよう、高齢の方や障害のある方への
 接遇・介助の基本を習得した「交通サポートマネージャー」の資格を有す
 る職員の養成を2018年度から実施しています。

2019年度は、市バスの指導運転士や地下鉄の助役以上の職員など
 約90名を養成します。（市バス32名、地下鉄50名、研修担当12名）

年度	2019	2020	…	備考
交通サポートマネ ージャーの養成	新たに養成 約90名	新たに養成 約80名	…	2018～2020年度に 約260人を養成



【「交通サポートマネージャー」の資格を取得するための講習】

■ 役付職員の添乗調査等による接遇レベルの向上

これまでから実施している「全国一お客様サービス実践モニター」制度
 について、2019年度も引き続き、交通局の役付職員が実際に市バスや
 地下鉄の添乗調査等を行い、その結果を当該乗務員や駅係員にフィードバ
 ックします。また、接遇に関する研修や表彰により、お客様への御案内や
 乗り心地の良さ等の接遇レベルの向上を図ります。

■ 「お客様満足度調査」の実施

市バス・地下鉄に対するお客様のニーズを把握し、利便性やサービス向
 上に役立てていくため、2019年度から新たに「お客様満足度調査」を
 実施します。

事業戦略3 利便性・快適性の向上

(市バス)

■ 路線・ダイヤの継続的な改善

交通局では、これまでから、厳しい経営環境下においても赤字路線を廃止することなく、利便性向上に努めてきました。市バス事業が再び厳しい経営環境を迎える中、2019年3月の新ダイヤでは、現行路線をしっかりと維持し、現有の車両・人員を最大限に活用して利便性の向上を図ることとしました。引き続き、あらゆる知恵を絞って、路線・ダイヤの継続的な改善に取り組めます。

(2019年3月の新ダイヤの概要)

1 利便性の向上

① 堀川通の混雑対策

- ・「二条城・金閣寺エクスプレス」の停車停留所の追加（四条堀川・堀川今出川）及び系統番号（急行111号系統）の付与による分かりやすさの向上



【京都駅と二条城・金閣寺を結ぶ急行111号系統】

② 夜間時間帯の運行充実

- ・夜遅くに四条界わい（烏丸・大宮）から千本通方面へお帰りになる方が増加している状況を踏まえ、夜間時間帯の運行を充実（46号系統，55号系統）
- ・地下鉄北大路駅から西大路通・河原町通を運行する系統でも、夜間時間帯の運行を充実（205号系統）

③ 停留所の新設

- ・停留所間の距離が長い区間への停留所の新設（北沓掛町六丁目（北行のみ），鳴滝松本町，嵯峨野秋街道町（東行のみ））

2 分かりやすさの向上

① 停留所名称の変更

- ・梅小路公園前 → 梅小路公園・JR梅小路京都西駅前
- ・京都学園大学前 → 京都先端科学大学前
- ・苔寺道 → 鈴虫寺・苔寺道

② 系統番号の変更

- ・快速202・205号系統（立命館大学行き）
→ 「快速立命館」



【京都駅と立命館大学を結ぶ快速立命館】

■ 市バスの旅客流動調査の実施と路線・ダイヤの在り方の検討

近年のお客様数の大幅増など御利用状況の変化を踏まえ、2012年度以来となる旅客流動調査とお客様アンケート調査を早期に実施する予定としています。

2019年度は翌年度以降の実施に向けた調査内容の検討を行います。

年度	2019	2020～2023
旅客流動調査の実施 路線・ダイヤの在り方の検討	調査内容 の検討	- 調査の実施 - 調査結果を踏まえた検討 - 路線・ダイヤへの反映

■ フルカラーLED式行先表示器の導入拡大

夜間の視認性向上や柔軟に行先表示の変更ができるなど、お客様にとって分かりやすい御案内ができるフルカラーLED式の行先表示器を、2018年度から2022年度までの5箇年で全車両（818両）に導入することとしており、2019年度は193両に導入します。



【フルカラーLED式行先表示器】

■ 車内中央部への案内モニター増設

混雑時をはじめ、車内後方のお客様にも停車バス停や鉄道への乗換案内をしっかりとお伝えするため、市バス（大型車両）の車内中央部に、4箇国語表示（日、英、中、ハングル）に対応した案内モニターを、2017年度から2019年度までの3箇年で増設することとしています。

最終年度となる2019年度は249両に増設し、全ての大型車両への増設を完了します。

【車内中央部に増設した4箇国語表示対応の案内モニター】



年度	2019	2020	2021	2022	備考
フルカラーLED式行先表示の導入	導入 193両	193両	193両	177両	2022年度に全車両への導入を完了
車内中央部への案内モニター増設	増設 249両				2019年度に全大型車両への増設完了

■ バス待ち環境の整備

・東大路通の歩行空間創出に伴うバス停の改修等

2019年度は、東大路通の歩行空間創出事業に伴い祇園（南行）バス停を移設するほか、清水道（北行）バス停については、東山区役所前に移設するとともに、バスの駅を整備します。

・京都駅前バスターミナルAのりばへのドライ型ミスト装置の設置

2019年度は、京都駅前バスターミナルAのりばにドライ型ミスト装置を設置します。

これにより、京都駅前バスターミナルの全ての市バスのりば（A～D）にミスト装置が設置されることとなり、夏季期間におけるバス待ち環境の向上を図ります。



【ドライ型ミスト】

・北大路バスターミナルのトイレのリニューアル

2019年度は、供用開始から25年が経過している北大路バスターミナルのトイレのリニューアルに向けた実施設計を行います。

（主なリニューアル内容）

- ・車椅子利用者用便房の設置などバリアフリー化
- ・洋式便器の増設
- ・女性トイレへのパウダーコーナーの設置

■ 市バス均一運賃区間の拡大

お客様サービスの拡充に向け、競合する他の民間バス事業者と協議・調整を深め、市バスの均一運賃区間の拡大に向けた取組を引き続き推進します。

（参考）これまでの均一運賃区間の拡大の取組について

平成26年3月 「嵯峨・嵐山地域」へ拡大

平成28年3月 「岩倉・修学院地域」へ拡大

平成29年3月 「上賀茂・西賀茂地域」へ拡大

※平成31年3月には、京都バス株式会社において、京都バスのみが運行している「岩倉北部・市原地域」へ均一運賃区間を拡大され、この地域でも「バス一日券」や「市バスIC定期券」等を御利用いただけるようになりました。

(地下鉄)

■ 車内や駅構内の案内表示の充実

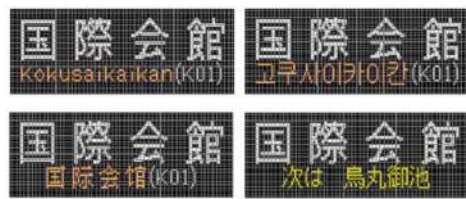
・車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進

地下鉄車両における案内表示装置について、4箇国語（日・英・中・ハングル）対応をはじめ、より分かりやすく、見やすい情報提供が可能な機器へのリニューアルを2017年度から2020年度までの4箇年で進めています。

2019年度は烏丸線3編成及び東西線4編成のリニューアルを行います。



【リニューアル後の車内案内表示装置】



【4箇国語に対応した車外の行先表示器（車両側面）】

年度	2019	2020	備考
車内案内表示装置 の4箇国語対応	烏丸3編成 東西4編成	東西4編成	2020年度に全編成で完了 (更新時期に近い烏丸線9編成を除く)

・災害時等の運行情報提供に係る駅構内掲示物の4箇国語対応

災害時等に、外国人のお客様にも円滑な情報提供を行えるよう、運行情報提供に係る駅構内の掲示物について4箇国語（日・英・中・ハングル）での掲出ができるよう対応します。

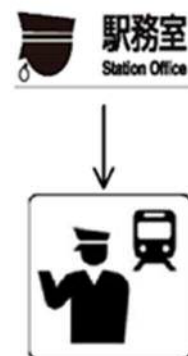
・外国人観光客にも分かりやすい案内用図記号への更新

東京オリンピック・パラリンピックへ向け、駅構内等に掲出する案内表示について、外国人観光客にも分かりやすい案内用図記号へ更新します。

【案内用図記号とは…】

案内用図記号（ピクトグラム）とは、不特定多数の人々が利用する公共交通機関や公共施設、観光施設等において、文字・言語によらず対象物、概念または状態に関する情報を提供する図形です。視力の低下した高齢者や障害のある方、外国人観光客等も理解が容易な情報提供手法として、日本を含め世界中の公共交通機関、観光施設等で広く掲示されています。

（JISマークの変更例）



■ 駅トイレのリニューアル

地下鉄駅トイレのうち、設備の更新時期を迎えている烏丸線の北山駅～竹田駅間のトイレについて、2020年度までに段差解消や車椅子利用者用便房の充実などのバリアフリー化を図るとともに、洋式便器化やパウダーコーナーの設置等のリニューアルを実施することとしています。これにより、地下鉄全駅のトイレの段差解消が完了します。



【リニューアルされたトイレ】

2019年度は、引き続き竹田駅トイレのリニューアルに取り組むとともに新たに九条駅及びくいな橋駅のトイレのリニューアルを実施します。

年度	2019	2020	備考
烏丸線駅トイレ のリニューアル	九条 くいな橋 竹田	十条 北山	2020年度までに全駅 のトイレの段差を解消

■ お客様の多い駅の夜間集中清掃をはじめとした駅構内の美化推進

京都駅、四条駅、烏丸御池駅などお客様の多い駅において、お客様のおられない夜間に集中清掃を実施するなど、トイレを含む駅構内の美化を推進します。

■ 駅施設・設備の計画的改修

駅構内のタイル壁や昇降機など、老朽化が進む駅施設・設備についてユニバーサルデザインの視点も踏まえ、計画的に改修し、お客様に快適に御利用いただけるよう取り組んでいます。

2019年度は、駅コンコース壁面のリニューアルを丸太町駅で、エレベーターのリニューアルを十条駅で、エスカレーターのリニューアルを北大路駅及び鞍馬口駅で実施します。

年度	2019	2020	2021	2022	2023
烏丸線駅コンコース壁面 のリニューアル	1 駅		3 駅	2 駅	
烏丸線エレベーターの リニューアル	1 駅	1 駅	2 駅		
烏丸線エスカレーターの リニューアル	2 駅	2 駅	2 駅	2 駅	1 駅

■ 照明のＬＥＤ化

地下鉄車両や駅構内の照明について、更新時期に併せてＬＥＤ化を推進し消費電力の削減を図るとともに、明るさの向上による御利用環境の向上を図ることとしています。

このうち、地下鉄車両の車内照明について、２０１９年度は東西線車両の４編成のＬＥＤ化を行い、２０２０年度までに全編成のＬＥＤ化を完了します。

年度	２０１９	２０２０	備考
地下鉄車両の 車内照明のＬＥＤ化	東西４編成	東西４編成	２０２０年度に全編成完了 (更新時期に近い烏丸線９編成を除く)

事業戦略4 まちづくりへの貢献

■ 地域主体のモビリティ・マネジメント（MM）の取組

市バス利用の機運を高めるため市内7つの地域において地域の皆様が主体となり実践されているモビリティ・マネジメント活動に，区役所，都市計画局と連携して取り組み，より多くの方に御利用いただけるよう努めます。

■ 事業者としてのCO2排出削減の取組

これまでから市バス・地下鉄両事業において，車両や設備の更新に当たっては，省エネルギー設備を導入し，環境負荷の低減に努めています。

2019年度は，市バスの「アイドリングストップ」機能を搭載した車両を引き続き導入するほか，地下鉄車両の車内照明のLED化を東西線の4編成において実施します。

■ 文化首都・京都への貢献

文化首都・京都の公共交通機関として，車両や駅などにおいて，文化や芸術，京都らしさを身近に感じることができる空間の創出などに取り組むとともに，市バス・地下鉄の魅力向上にもつなげます。

（2019年度の主な取組）

- ・市内芸術系大学等と連携し，地下鉄駅及び市バス車両において，デザインアートを施した「KYOTO駅ナカアートプロジェクト」の実施
- ・地下鉄駅構内においてミュージシャンの演奏等により駅の賑わいを創出する「サブウェイパフォーマー事業」の実施

（参考）西陣織工業組合と京都精華大学に御協力いただき共同制作したNISHIJIN BUSも引き続き運行します。



■ 次世代技術や新たな公共交通についての動向の注視・研究

公共交通の分野において，自動運転やAI（人工知能）などの次世代技術や，MaaS（マース）などの新たなモビリティサービスについての研究や実用化の動きが活発化しています。

このような中，都市計画局とも連携を図りながら，他事業者の事例や国における検討状況等について情報収集を行い，将来の事業への影響やその活用の可能性について，交通局においても注視・研究していきます。

事業戦略5 経営基盤の強化

【持続可能な財政運営】

■ 運賃収入の増収に向けた取組の推進

事業の根幹である運賃収入の増収に向け、市バス・地下鉄のネットワーク全体での利用促進や利便性向上に取り組めます。

また、市バス事業については、「バス一日券」のような割引乗車券の比率が高く、お客様1人当たりの乗車運賃が低い状況を踏まえ、乗車券の種類・価格について点検・見直しを行い、お客様1人当たりの乗車運賃の引き上げを図ります。

（2019年度の主な取組）※再掲 13ページ参照

- ・「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の目標達成に向けた取組
- ・区役所等と連携した赤字系統の利用促進
- ・お客様1人当たり乗車運賃の引き上げ

■ 附帯事業収入の増加に向けた取組の推進

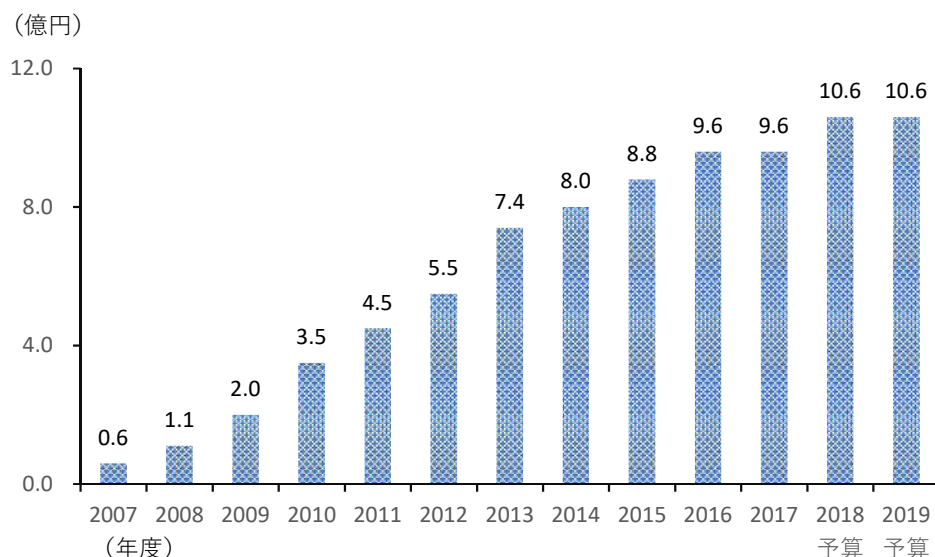
駅ナカビジネスや広告料収入など、運賃以外の貴重な収入である附帯事業について、引き続き積極的に取り組みます。

（主な附帯事業収入）

取組項目	2019年度予算額（税込）
広告料収入の確保	市バス 3.9 億円，地下鉄 7.9 億円
駅ナカビジネスの推進	10.6 億円



（参考）駅ナカビジネス収入額の推移



■ コスト削減策の推進

既存事業の経常経費についての精査や、設備更新費用の抑制など、運営コストを総点検し、常に効率的な業務執行に努めます。

（２０１９年度の主なコスト削減策）

- ・バス車両の更新年数延長（１８年）の継続
- ・設備更新年数の延長の継続
- ・投資を伴う新規事業の実施規模の精査や、仕様の見直しによる設備更新費用の抑制に向けた予算の編成 など

■ 施設マネジメント計画に基づく施設等の長寿命化

地下鉄駅やトンネルなどの土木施設や、バス営業所などの建築物に係る「交通事業施設マネジメント計画」（２０１９年３月策定）に基づき、施設の計画的な保全による長寿命化を推進していきます。

２０１９年度は、ライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化を図るため、一定規模（２階以上又は延べ面積が２００㎡）以上の建築物についての改修計画を策定します。

■ 利益剰余金の活用など財政の安定化のための対策

市バス事業においては、今後、経常損益が赤字となることが見込まれるため、これまでの黒字を活用することとしています。

２０１９年度は、２０１７年度の黒字額（約２３億円）と２０１８年度の黒字見込額（約１４億円）について、処分を行わずに留保します。また、建設改良積立金の取崩しにより増加する利益剰余金について処分を行わずに留保します。

■ 制度等の継続的な点検・研究や国への要望

事業の前提となる財務に関する制度等について、運営上課題となっているものがないか、継続的な点検に努めます。課題となるものについては、本市をはじめ、公営交通事業を運営する各都市の実情を踏まえた制度設計や運用となるよう、国に対し、本市の実情を踏まえた制度の改善や、財政面での支援等について、要望を行っていきます。

本市における事業運営上の課題

【市バス事業】

- バス車両の企業債償還期間について、実際の使用年数を踏まえた期間への改善
- バス運転士等担い手不足の課題対応のための支援など

【地下鉄事業】

- 施設の改修や、可動式ホーム柵の整備に対する補助制度の拡充など

■ 市民の皆様への経営情報等の発信強化

市バス・地下鉄の経営状況や取組等について、市民の皆様をはじめお客様に御理解いただき、市民ぐるみの取組として市バス・地下鉄の利用促進と「歩くまち・京都」を推進していけるよう、経営に関する情報等の発信を強化していくこととしています。

2019年度は、新たに「経営レポート」を作成し、市バス・地下鉄の取組や財政状況を市民の皆様に分かりやすくお伝えし、経営状況の見える化を進めます。

【組織力・職員力の向上】

■ 公共交通を支える担い手の安定的な確保

（2019年度の主な取組）※再掲 11ページ参照

- ・路線・ダイヤの維持に向けた市バス運転士の確保
- ・女性運転士の採用に向けた取組
- ・より質の高い市バス運転士の育成
- ・市バスの安全輸送を支える整備職員（自動車検査技師）の確保

■ 真のワークライフバランスの実現に向けた「働き方改革」の実践

限られた時間で成果をあげる「質の高い働き方」につながる取組を推進するとともに、職員の勤務状況の把握と健康管理により一層努め、一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮できる職場環境づくりに取り組みます。

（2019年度の主な取組）

- ・労働基準法の改正（年5日の年次有給休暇の確実な取得、時間外労働の上限規制）を踏まえた労働時間管理の徹底及び年次休暇の取得促進
- ・パソコンのログ確認システム等を活用した労働時間の把握
- ・やむを得ず深夜に及ぶ業務を行った職員に対する健康管理の徹底

■ コンプライアンス意識の向上と風通しのよい組織づくり

幹部職員が定期的に委託先を含む市バス営業所や地下鉄運輸事務所を巡視し、点呼執行状況の調査など適正な業務執行がなされているかどうか確認するとともに、職員の更なるコンプライアンス意識の向上と風通しのよい組織づくりに向けた取組を実施していきます。

5 2019年度予算の概要について

◎市バス事業

■経営ビジョンに基づく予算編成

- 安全・安心を最優先に、路線の維持・運行の充実、混雑対策の推進など、お客様サービスを維持する予算として編成しました。
- 民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」等の取組の推進や「地下鉄・バス一日券」のPRなどにより、1日当たりのお客様数は、前年度予算並みの368千人を見込んでいます。

項 目	予算額（税込）
経常収入	237億19百万円
(1日当たりのお客様数)	368千人
経常支出	242億54百万円
経常損益	△5億35百万円
利益剰余金	79億84百万円
資本的収入	24億68百万円
資本的支出	36億66百万円
資本的収支	△11億98百万円
資金剰余額	52億46百万円

■厳しい経営状況が継続

- 全国的なバス運転士、整備士の担い手不足に伴う委託料の増加や軽油価格の高騰等により、経常損益は前年度予算から16億円悪化し、2008年度以来となる赤字予算（△5億円）となりました。今後も、担い手不足がより深刻になることが想定される中、今後10年間で、220億円もの更新費用を要するなど、厳しい経営状況が継続する見込みです。

◎地下鉄事業

■経営ビジョンに基づく予算編成

- 安全対策やお客様サービスの向上、更なる増客を図ることを柱に、将来にわたって「市民の足」としての役割を果たす予算として編成しました。
- 「地下鉄・市バス1日80万人」に向けた取組により前年度予算比で6千人増となる399千人のお客様数を見込んでいます。

項 目	予算額（税込）
経常収入	359億84百万円
(1日当たりのお客様数)	399千人
経常支出	345億09百万円
経常損益	14億75百万円
現金収支	111億71百万円
△累積欠損金	△3,050億58百万円
資本的収入	331億39百万円
資本的支出	455億59百万円
資本的収支	△124億20百万円
累積資金不足	317億05百万円
有利子負債残高	3,784億65百万円

■依然全国一厳しい経営状況

- 経常損益は15億円の黒字を見込んでいますが、3,785億円にもものぼる有利子負債残高を抱えるなど依然として全国一厳しい経営状況となっています。

2019年度交通局運営方針

2019年6月発行

☆この運営方針に関する御意見，お問い合わせ先

京都市交通局 企画総務部総務課

〒616-8104 京都市右京区太秦下刑部町 12

TEL 075-863-5035 FAX 075-863-5039

URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/>